

第三回北東アジア国際観光フォーラム新潟大会開催

ERINA客員研究員 成実信吾

2006年9月19日から20日まで、新潟市において第三回北東アジア国際観光フォーラム新潟大会が開催された。北東アジア国際観光フォーラム(International Forum on Northeast Asian Tourism、略称IFNAT)は、北東アジアの国々との間での観光交流を促進して相互理解を深めて、地域の平和と経済発展に貢献するため、2004年に関係者が集まり、結成したものである。第一回は中国大連市、第二回は韓国テグ市で開催され、今回日本で初めて開催された。今回の日本での開催地には、観光産業の振興に熱心な新潟県が選ばれ、「北東アジア域内交流の活性化と新潟観光の振興」を総合テーマに議論が行われた。

会議には、中国、韓国、ロシア、モンゴル等の海外から150名を超える参加者があり、国内からも約150名が参加し、合計300名の参加者を得た。今回の会議の特徴としては、海外からの参加者のメンバー構成を、行政や研究者に限らず、旅行業界の方々にも参加を要請し、日本側企業との商談会を行ってビジネスマッチングも用意したことにある。その結果、海外からの参加者は、概ね行政三分の一、研究者三分の一、旅行事業者三分の一になった。なお、今回は東京の(株)中外旅行社が会議に初めて参加し、北朝鮮の観光について論文発表を行った。

今回は、海外からの参加者に対して、会議に先立ちプレフォーラムツアーを実施し、日本式観光体験として、9月17日に月岡温泉と岩室温泉に宿泊して貰い、日本の温泉を体験して貰った。

翌18日には、同じく海外からの参加者に対し新潟県内や新潟市内の観光施設を案内して、新潟の観光を紹介した。新潟観光の最後に、毎年この時期に新潟市内を会場に開催されている「総おどり」を見学してもらったが、これがどの国の人にも大変好評で、「総おどり」の見学の時間が短いと不満が出るほどであった。一方、温泉も好評で、人種や文化を超えたレジャーになっている事を証明している。

19日に開催されたフォーラムでは、午前基調講演とラウンドテーブルディスカッション、午後には分科会が開催された。

基調講演は、中国社会科学院旅遊研究センター 張広瑞主任、モンゴルJuilchin World Tours S.ネルグイ社長、韓国世明大学観光経営学部 チェ・スンゴク教授、ロシア・ハバロフスク地方政府観光局 V.セリユコフ局長、北東アジア観光研究会 関山信之代表幹事が、それぞれの国を代

表して講演した。

ラウンドテーブルディスカッションは、吉田進ERINA理事長をコーディネーターに、中国遼寧省旅遊局 應忠元副局長、黒龍江省旅遊局 王永生副局長、モンゴル S.ネルグイ社長、韓国総合経済研究院 パク・フンソ院長、韓国テグ市観光協会 イ・ヒド会長、ロシア V.セリユコフ局長、ロシア沿海州観光委員会 E.ネボムニャシャ副会長、新潟県産業労働観光部 小島観光企画監、新潟市産業経済局 鈴木局長が出席し、それぞれの地域や組織の立場から、観光の重要性や現状と課題などについて意見を発表した。中でも、ハバロフスクのセリユコフ局長が新潟に観光情報センターを開設することや観光専門家養成の研修の実施する、といった構想を発表したのが注目を集めた。又、黒龍江省旅遊局の王永生副局長は、黒龍江省と吉林省の旅行者にはビザ申請の手続きが出来ず、観光交流の障害になっている点を指摘した。

その後、会場の参加者からの質問を受け、活発な議論が展開された。ここでもビザの問題が指摘され、国際大学の山澤学長が、政治に頼らず民間で交流をどんどん進め、観光は外交をリードする気概を持つべきと指摘した。それ以外にも、IFNATの開催には行政サイドの支援が必要なことや、ハード面のみならず、ソフト面も開発する必要性の指摘など、観光を一層盛んにしていく提案が出された。

最後に、第三回IFNAT新潟大会実行員会から提案された「北東アジア観光開発のための共同戦略策定の提案」について参加各国が具現化を目指し、より緊密なネットワークを組んでいくことを確認して書面に調印した。

午後は、三つの分科会に別れ、各コーディネーターの元に「北東アジアの観光の特徴と振興方策」、「北東アジアの観光振興に向けてのインフラ整備」、「日本向け観光客増加策」をテーマに、議論が進められた。

第一分科会「北東アジアの観光の特徴と振興方策」は、北京大学の呉必虎教授がコーディネーターを務め、北東アジア観光開発マスタープラン、国境観光の開発、戦跡の観光資源化等の提案が発表された。

第二分科会「北東アジアの観光振興に向けてのインフラ整備」は、大阪観光大学の鈴木勝教授がコーディネーターを務め、遼寧省の海洋観光、韓半島の南北道路連結や新潟空港の誘導路拡幅といったインフラ整備の及ぼす影響について発表があった。

第三分科会「日本向け観光客増加策」は韓国テグ大学李應珍教授がコーディネーターを務め、主として日本向け観光客の増加策に関する発表があった。

最終日の20日は商談会・交流会が開催され、新潟県内の

企業と海外から参加した旅行事業者との間で、実務の話が進んだ。

一方、商談会と同時並行で研究者の交流会が実施され、研究者間の交流が進んだ。

このフォーラムの開催準備には膨大な労力と時間を要したが、このフォーラムがきっかけとなって、北東アジアの国々の間で観光交流が一層進むことになれば、我々事務局にとっては、その苦勞を吹き飛ばす望外の喜びとなるものである。